一般財団法人
徳島県遺族会
会報

日本遺族会
中国・四国ブロック会議 鳥取市で開催

令和二年四月一日から 次回「特別弔慰金」の受付開始

発行所
徳島市雑賀町
東開21番地1
一般財団法人
徳島県遺族会
TEL(088)636−3212
FAX(088)636−3213
http://izokukai.jp/
発行責任者
増矢　稔
印刷
グランド印刷㈱

日本遺族会の第四ブロック（中国・四国の各県）会議が去る九月五日（木）から六日（金）の日程で鳥取県鳥取市において開催された。

会議は、中・四国九県から会長、副会長、女性部長、青年部長など五〇名の参加であり、本県からは増矢会長、吉川副会長、濵副会長兼女性部長、高井青年部長及び事務局長が出席した。国歌斉唱、ご英霊に感謝の黙祷を捧げた後、地元鳥取県遺族会の國政会長、日本遺族会の市來副会長の挨拶の後、来賓として野川鳥取県副知事、藤縄鳥取県議会議長から挨拶をいただき、國政会長が議長に就任し、会議に入った。

まず、日本遺族会盛川事務局長より中央情勢として、「特別弔慰金」について説明があった。次回特別弔慰金は令和二年四月一日から受付が開始され、今回も年額五万円を五年間受け取ることができることとなっており、大きな改正点としては同順位の請求権者がいる場合に必要とされていた「同意書」が不要となる見込みとのことである。今後、詳しい事情等は国や県から明らかにされる予定である。

その他、中央情勢として、「海外における遺骨収集の現況（厚生労働省において精査中）」、「靖國神社への国会議員参拝の状況」、「女性部と青年部の活動予定」等について説明がなされた。

続いて、各県から提出された「今後の遺族会の在り方」「遺族会が取り組む平和学習活動」「青年部の活動状況」等についての議案が審議され、各県の状況について意見交換が行われた。

特に「今後の遺族会の在り方」に関しては、日本遺族会に特別委員会が置かれ審議が進められており、財政、組織、英霊顕彰と遺族処遇の検討を行った後、来年五月には、遺族会の継続手法について中期的な観点から報告がなされることとなっている。

令和元年度護国神社 例大祭が斎行される

去る十一月二日、令和の御代となってはじめての徳島県護国神社例大祭が、厳粛かつ盛大に斎行された。

当日は、岡田強徳島県隊友会会長、飯泉嘉門徳島県知事、増矢稔徳島県遺族会会長から祭文が奏上されるとともに、福山守衆議院議員、中西祐介参議院議員をはじめ、各界各層から大勢の来賓をお迎えした。また、県内各地からは御遺族約七百名が参列し、来賓や市郡遺族代表が玉串を捧げて拝礼した。

本大祭において、今日の我が国の発展は御英霊の尊い犠牲の基に築かれたものであり、御祭神に対して感謝の誠を捧げるとともに、総理をはじめ全ての国民が、感謝の心をもって靖国神社、護国神社に自然な形で参拝される日がやってくることが願われ、また高齢化する御遺族の支援が誓われたものである。

また、今年は一昨年に引き続き飯泉知事が参列されており、来年以降も参拝されることを願うところである。

靖国神社参拝団募集

実施日／令和２年３月29日（日）～３月31日（火）

主な観光地　東京都内（靖国神社団体参拝、迎賓館赤坂離宮、六本木ヒルズ）
武蔵陵墓地、小田原城址公園、箱根神社、芦ノ湖遊覧、鶴岡八幡宮 など

旅行代金　９３，０００円

募集人員　４５名（最少催行人員25名）

締切期日　令和２年１月17日（金）
※ただし、満員になり次第締め切ります。

お申込先　〒770-8021　徳島市雑賀町東開21-1
（護国神社内）
徳島県遺族会事務局（TEL 088-636-3212）

日付		行　程	宿泊・備考
1	3/29（日）	徳島空港 9:00 ──JAL454──→ 羽田空港 10:10/10:50 記念撮影後、ご参拝 ──靖国神社（昇殿参拝・遊就館見学・昼食）── 11:30 14:10 世界の賓客をもてなす迎賓館の豪華絢爛たる本館及び主庭、前庭 ──迎賓館赤坂離宮（本館・庭園）ご見学── 14:30 16:00 ──九段下（泊）　ご夕食はホテルにて 16:15	（九段下）ホテルグランドパレス
2	3/30（月）	美しい日本庭園のほか、75本の桜並木が続くさくら坂見学 ホテル──六本木ヒルズ 毛利庭園・六本木さくら坂── 8:00 8:30 9:30 昭和、大正天皇が眠る皇室墓地 ──昭和天皇 武蔵陵墓地ご参拝── 10:30 11:30 ──鈴廣かまぼこの里（昼食）── 12:40 13:40 小田原桜まつり開催期間予定 ──小田原城址公園・天守閣── 14:00 15:20 日本で有数の本格的な山岳鉄道へご乗車 ──小田原駅 ++++++ 箱根湯本駅…… 15:30/15:52 16:10着 ……駅前にてお土産店散策──箱根湯本温泉（泊） 16:50 17:00	（箱根湯本温泉）箱根パークスホテル吉野
3	3/31（火）	関東屈指のパワースポット　桃源台～箱根町 ホテル──箱根神社──芦ノ湖遊覧（海賊船）── 8:20 8:50 9:30 9:50/10:10 10:45 箱根関所を完全復元　昼食 ──箱根関所跡資料館──箱根町── 10:50 11:40 11:45 12:40 鎌倉のシンボル鶴岡八幡宮と、賑やかな小町通り見学 ──鎌倉・鶴岡八幡宮、小町通り散策── 14:15 15:45 お弁当 ═══ 羽田空港 17:00/18:30 ──JAL463──→ 徳島空港 19:50	

戦没者遺族相談員制度について

ご遺族からの相談に応じて、助言等を行ってくれる「戦没者遺族相談員」は表の18名の皆様です。10月1日から2年間の任期で、ご遺族の相談業務にあたることになりました。各担当地区の戦没者遺族相談員に、特別弔慰金や公務扶助料に関することなど、お気軽にご相談ください。

戦没者遺族相談員

（厚生労働大臣委託）　委託期間　令和元年10月1日～令和3年9月30日

地区担当	氏　名	住　所	電話番号
徳島市	米川　孝宏	徳島市論田町本浦下19-12	088-662-1771
徳島市	緒方　和子	徳島市寺島本町東１丁目15	088-653-3837
徳島市 鳴門市	上浦喜代志	徳島市佐古三番町13-3	088-652-2966
鳴門市	上田　哲夫	鳴門市撫養町斎田字浜端西93	088-686-2208
小松島市	赤瀬　敏幸	小松島市赤石町3-43	0885-37-1174
阿南市	池添　哲哉	阿南市見能林町中村6-2	0884-22-5133
阿南市	神野　武重	阿南市山口町蓮花寺63	0884-26-0661
吉野川市	後藤田重喜	吉野川市川島町桑村2514	0883-25-2392
阿波市	吉川　精二	阿波市市場町尾開字八坂264-2	0883-36-2538
美馬市 美馬郡	小笠　功	美馬市美馬町字城47番地	0883-63-4905
三好市	木下　豊幸	三好市山城町下名1623	0883-84-2328
三好市 三好郡	山口　博視	三好郡東みよし町昼間2885番地	0883-79-2219
勝浦郡	東　功	勝浦郡上勝町大字旭字東浦九番地	090-4782-1229
名西郡	萩原　一徳	名西郡石井町高原字関363-1	088-674-2511
名西郡 名東郡	谷渕　孝雄	名東郡佐那河内村下字仕出39番地	088-679-2051
那賀郡	亀代　高男	那賀郡那賀町小仁宇大坪102	08846-2-1603
海部郡	坂千代克彦	海部郡牟岐町内妻字丸山120-3	08847-2-1013
板野郡	近藤　隆弘	板野郡板野町吹田字町西63	088-672-0670

語り部事業のご案内

●第63回　12月14日（土）　南　達二 氏（91）（海部郡海陽町）
日和佐中学校の生徒であった昭和18年から19年にかけて、氏は学徒動員で神戸の軍需工場で働きました。その厳しい生活と神戸大空襲の体験、また徳島に帰ってからの暮らしなどをお話いただきます。

●第64回　１月11日（土）　仁田　若利 氏（93）（海部郡牟岐町）
那賀郡の木頭で出生された氏は、大阪での通信訓練を経て米軍機の飛行監視を行うため予科練に入隊。その厳しく辛い日々、また、戦中の生活などについてお話いただきます。

＊徳島県戦没者記念館にて毎月第２土曜日開催（13：30～14：30）

支部だより

令和元年度 三好遺族連合会 戦没者慰霊祭・遺族大会

令和元年十月二十二日（火）三好市池田総合体育館に於いて、三好遺族連合会（三好市遺族会・東みよし町遺族連合会）は三好市・東みよし町により挙行頂いている戦没者追悼式とは別に、毎年秋に三好仏教会及び詠歌会のご協力により、戦没者慰霊祭を行っております。

今年は、百八十一名参加のもと、厳かに法要がとり行われました。

ご詠歌奉詠のもと二十四名の僧侶の読経の中、仏教会会長の回向の文に続き、主催の三好遺族連合会会長の祭文並びに焼香、ご来賓慰霊の言葉並びに焼香、続いて遺族その他一般の方々の焼香があり、戦没ご英霊の永久のご冥福をお祈り申し上げ、厳粛の内に法要は終了いたしました。

続いて、三好遺族連合会遺族大会を執り行い、国旗並びに三好遺族会旗掲揚のもと国歌斉唱・戦没英霊に対し黙祷が掲げられ、会長挨拶の後、遺族会活動に多大なる貢献を頂いた方に表彰状・感謝状が贈呈され、来賓のご祝辞を頂いた後、遺族会決議文を朗読・確認し盛会裏に大会を終了致しました。

戦没者記念館だより　―写真展示数 8,084柱（令和元年10月31日現在）―

平成31年4月から令和元年10月までのアンケート調査結果については以下のとおり。(対象者323名)

▶ アンケート概要

①【来館のきっかけ】は、「新聞」が19%、「家族」17%、「遺族会」16%の順。

②【来館の目的】は、「展示の観覧」37%、「学習・教養を深めるため」21%、「遺影を見るため」20%。

③【来館されての感想】は、「非常に満足した」が53%、「満足した」が45%と、両方を足すと98%。

④【来館者の年齢等】は「70歳代」25%、「40歳代」16%、「60歳代」13%、「80歳以上」12%、「20歳未満」「50歳代」11%「30歳代」7%、「20歳代」4%、の順。

来館者の遺族の割合は38%。

▶ 来館者の感想等（自由意見：29の意見から抜粋）

- パネル展示はバランスの良い内容で、解説文も非常に分かりやすく、その情報もよく整理されている。学校教育でこの記念館を利用されることを強く希望する。(30代男性)
- 戦争に臨む人の気持ちが分かる家族への手紙が豊富で、心が打たれた。(40代男性)
- 遺影の方達の若い姿に涙が止まりませんでした。このような悲しい事が二度と起きないよう、この記念館が伝えていってもらえたらと思います。今度、子供・孫も連れて来ようと思います。(50代女性)
- 前々から来たいと思っていた記念館と家族像を見に来ました。戦争を二度と繰り返してはならないとの思いを改めて強くしました。思いかけず、沖縄で戦死した私の祖父の弟の顔写真を発見し、驚きと共に感動しました。ここで写真を大切にされているのだな、と有難く感じました。(60代男性)
- この写真は永遠に残して頂きたい。(50代女性)
- 戦争の経験の無い世代で、ネットや学校の教科書でしか知らなかったが、実際に写真や当時の物を見た事で、ぼんやり知っていたことがはっきりとした。その中で、我々の世代が戦争を考えて、どの道を選ぶかを考える、大変良いきっかけと責任感を感じました。(20代男性)

初詣

―平和の祈りとともに―

徳島県護国神社

《諸祈願》

家内安全・厄祓・交通安全・会社新年祈願等

《開門時間》

元日は、午前〇時から午後六時まで

二日以降は、午前八時三〇分から　午後五時まで

《左義長》（どんど）

一月十五日㈬午前十一時から神事・午後三時まで。お正月のしめ飾りや古いお札などお焚上致します。焼餅、しょうが湯の接待があります。

徳島県護国神社社務所

TEL 088-669-3090

語り部事業講演要旨

●第59回語り部事業　8月10日（土）

「戦後74年・残された遺族の悲しみ」

阿波市　**出口　恒**氏（86）

護国神社には私の叔父、妻の父もお祀りされており、今日はお二人に見守っていただきながらお話できることを嬉しく思います。

まず、先の大戦の概要をお話します。昭和16年12月8日、日本は航空機138機をもって、ハワイの真珠湾攻撃を成功させました。その後、日本軍の最大進出範囲は東京から5,000kmに及んだのですが、真珠湾攻撃時に米軍空母は無傷で残り、昭和17年6月のミッドウェー海戦での大敗が敗戦への分岐点となりました。その後の戦闘はすさまじく、妻の父が亡くなったレイテ島での戦闘等の後、米軍は沖縄戦を経て日本本土へと進撃しました。米軍は日本中の都市を焼夷弾で焼き尽くす計画をもっていました。そして開戦から4年、長崎、広島への原爆投下後に終戦を迎えたのです。米国は日本人の玉砕を止めるため原爆を使ったと言ったようですが、それを遺族の方がどう思うか、察するに余りあります。

私は、昭和10年に大阪市で生まれました。昭和15年9月、叔父は20歳で出征地である満州で亡くなりました。当時のことを思い起こすと、朝は勇ましく出征兵士を見送る出陣式が行われましたが、夕暮れ時になると静かでもの悲しいラッパの音が流れ、遺族の方が遺骨を抱えている風景が目に浮かびます。

私の家は、大淀区の環境の良いきれいな街の中にありました。大阪大空襲は昭和20年に繰り返し行われ、私はそのうち3回を体験しました。大阪の街はことごとく破壊され、焼け野原となりました。空襲の前に、米軍は予告ビラを空中から大阪中に何万枚も撒き散らしました。内容は日本軍の無力さと、非戦闘員は逃げるように告げたものですが、日本軍司令部はこのビラをかき集めて、米軍のデマであると言っていたようです。私の父はこのビラを持っており、後に米軍と日本軍の力の差を教えてくれました。米軍の空襲への対応も、バケツリレーと17mしか飛ばない手押しポンプで消火しようとしており、こんな具合では間に合うはずもなく、今となっては当時の軍の指揮命令の混乱がよく分かるのでした。

そしてその後、私は徳島へと学童疎開して参りました。大阪港で500トンくらいのポンポン船に貨物と一緒に人も乗り、寝る場所もない船内で一晩を過ごし、今の県庁の横あたりの徳島の港に着きました。土成町に親戚があり、お世話になりました。その後さらに戦禍が厳しくなり、父も疎開して来ました。父はあるだけの財産を持って来たのですが、戦後のもの凄いインフレによって、その財産は瞬く間に価値を失ってしまいました。

土成町は本来豊かな土地ですが、統制が取られており、農家でも十分な米は作ることができませんでした。学校へ行くにも、米と麦を半々で炊きあげ、子どもに恥をかかせてはいけないと、母は米のところを弁当に詰めてくれておりました。日本国民は皆たいへん厳しい生活を送っていましたが、私は苦しいながらも、まだ一番よい年代で戦中戦後を過ごせたのではないかと思います。

少し話は戻りますが、戦中と戦後で一番混乱したのが、軍国主義から民主主義へと教育が大きく変わったことがあげられます。戦前に国民学校で私が受けた教育は「欲しがりません、勝つまでは」「一億総玉砕」「国のために捨て石になれ」「寿命は二十歳までと思え」「名誉の戦死をせよ」という言葉に代表されるものでした。

当時の国民学校には校長の下に将校がおり、軍事教育が徹底されていました。何かあればすぐに制裁が加えられ、私も一度将校から鞘付きサーベルを頭に振り下ろされ、それは今も痕になって残っているのです。

戦後、旧軍は否定され、復員された兵隊さんは騙された格好になってしまいました。しかし、さすが日本人だと思うのは、命を取り留めた人達は戦後の混乱を収束させ、新たな秩序の中で経済力をつけ、世界一流の国へと復興を遂げたのでありました。

このような話ができるのも、我々の年代が最後かなと思いますが、戦争と平和について語り継ぐことは大切なことです。

終わりにあたり、ローマ法王の言葉を紹介します。「戦争は人間の仕業である。」

●第60回語り部事業　9月14日（土）

「長崎における夜間空襲」

美波町　**蛇目　行二**氏（86）

太平洋戦争中、日本本土への米軍のB29爆撃機による空襲が本格的に行われたのは、昭和19年6月からと言われています。中国の基地である成都を発進したB29は、6月16日と7月7日の2回、北九州工業地帯の八幡製鉄所を目標にして爆撃しました。いわゆる八幡空襲です。

8月11日、第3次の空襲が長崎を襲いました。夜間空襲です。私は当時、朝日国民学校の6年生であり、この夜間空襲を体験いたしました。少年の日の記憶を辿ると、不思議にあの夜の情景は今でもはっきりと覚えています。

あの夜は月夜でしたが、曇り空で、時々雲の切れ間から月が顔を出していました。なんだか蒸し暑い夜でした。時間は不明ですが、宵の口から警戒警報のサイレンが鳴り、私たちは防空頭巾を頭にかぶり、リュックを背負い、自宅前の道路の端に造られた防空壕に避難していました。しばらくの間壕の中にいましたが、隣組の人たちは敵機来襲の気配がなかったので、町に来た警防団の指示で壕の外に出て静かに家の軒下などに腰を下ろして、皆無言で夜空を見つめ、警報が解除されるのを待っていました。灯火管制により、家はもちろん街灯も消され、町は真っ暗闇で重苦しい空気に包まれていました。

すると、急に夜空に飛行機の爆音が聞こえてきました。すかさず稲佐山や日本軍の陣地から数本の探照灯（サーチライト）が夜空に向けられ、その光線が交差していたのを今でも覚えています。しかし、探照灯は短い時間で消えました。

その後、爆音が前よりもかなり近くに、大きく聞こえてきました。その瞬間、上空から光の球のような物が落下してくるのが見えました。そして何かがはじけるような音がして、夜空が昼間のように明るくなったのです。照明弾が投下されたのです。「ウァ！防空壕に逃げろ！」と大人たちが、大声で叫びました。大人も子どももみんなで慌てふためき、防空壕へ一目散に逃げ込みました。私たちは、真っ暗な狭い防空壕の中で震えながら身をかがめていました。防空壕は、屋根を赤土などで固め、ちょうど蒲鉾型をしていました。壕の高さは道路から1.5m位あり、下へも1.5m位掘り下げられ、階段を数段降りた所に細い通路がありました。床には板が敷かれてあり、所々水が溜まっている所もありました。私たちはそこに座り、身を潜めていました。

みんなが一息ついたと思った頃に「トントン！ダダッ、バンバン、ドーン！」と大きな音が鳴り響いてきました。それはB29から爆弾や焼夷弾が投下された時の爆発音や、長崎港内に停泊中の海軍の軍艇や稲佐山等にあった陸軍の要塞からの対空砲火の発射炸裂する音だったのだろうと思います。それはかなりの時間続きました。私はちょうどその時分、耳の治療を受けていまして、片方の耳に薬を付けた綿を入れられていたので、片方の耳でしか音が聞き取れませんでした。それで、音の恐怖は人の半分ですみました。

私たちが壕で待機中に、突然大人の人たちが助けを求めて壕に逃げ込んできました。その人は、爆撃の最中突然「南無妙法蓮華経」と大きな声で唱えだしたのです。その異様な声が、私たちの恐怖心をより一層駆り立てるのでした。暗闇だから、その人がどんな身なりや顔立ちをしていたかは、知る由もありませんでした。何時間後かにB29の編隊は長崎の上空を去っていきました。

夜が明けると山の方に避難していた人たちが帰ってきました。山側へ逃げた組の中には、負傷者が出て、私たちのように三菱工場の付近にいた者が無事だったのです。

戦後の長崎市戦災記録によると、あの日来襲したB29は24機で、目標上空に到達するも成果は不十分で町の一部を焼いただけだったと記録されています。米軍が空爆を完遂していたなら、私たちの運命はどうなっていたのかと思います。

だれかが言われたように、戦時体験者の記憶は、語り継ぎ書き残す努力をしない限り、忘却の彼方に消えてしまいます。歳月が過ぎていくと人々の記憶の風化が進み、ただ単なる歴史年表になるかも知れません。戦後74年になる今日、私は平和を愛する人間としてその思いを述べさせていただきました。

祝百歳

山口　スズ子 さん　（徳島市）

徳島市大和町の山口スズ子さんが、令和元年10月6日に百歳の誕生日を迎えられました。徳島県遺族会からのお祝い状と記念品をご自宅にお届けしてまいりました。

中支にて戦死なさったお兄さまの写真が飾られている部屋で一日殆どベッドでテレビを観て過ごしておられますが、大そうしっかりしておられて、私達がお届けしたお祝い状をはっきりと読み、喜んでいただきました。

週２日のデイサービスに通ったり、訪問介護を受けたりしていますが、娘さんのご家族と一緒の生活で穏やかな毎日を過ごされているようです。末永くお幸せに、とお祈り申し上げます。

渭東地区遺族会会長　平岡節子

中川　薫 さん　（那賀町）

那賀郡那賀町和食にお住まいの中川　薫さんが令和元年９月６日に満百歳を迎えられました。徳島県遺族会からのお祝い状と記念品を届けてまいりました。

中川さんは自らも日赤の従軍看護婦として国内・海外で活躍され、ご主人が戦死されてからも従軍看護婦の職務を全うされました。

帰航の際、乗船予定の船が変更になり病院船に乗ってきたのですが、変更されたことが幸いし無事に帰ってこられました。乗船予定だった船は攻撃を受け無情にも沈められたそうです。

戦後は再婚され理髪店を営みながら３人の子供さんを立派に育てました。当日はご家族とお祝いに駆けつけた親族の方に囲まれ「ありがとう。ありがとう。」と涙を流しながら喜んでいました。とてもおだやかで、幸せそうでした。益々のご健康、ご多幸を心からお祈り申し上げます。

那賀町遺族連合会会長　亀代高男

徳島県遺族会 フィリピン慰霊巡拝団募集

旅行実施日 令和２年1月19日（日）～1月25日（土）

主な訪問地　フィリピン：◎クラーク、◎バギオ、ボントック、◎バナウエ、◎マニラ、カリラヤ（◎印宿泊地）

旅行代金　**２００,０００**円（徳島発着）

募集人員　**２５**名（最少催行人員15名）

申込締切日　**令和元年11月22日（金）**
※ただし、満員になり次第締め切ります。

申込金　**３０,０００**円

―― お申込先 ――
〒770-8021
徳島市雑賀町東開21-1（護国神社内）
徳島県遺族会事務局
TEL.088-636-3212

校外学習で 阿波市立八幡小学校六年生が 来館

11月５日（火）、阿波市立八幡小学校の６年生児童と引率の先生20名が、「校外学習」で戦没者記念館に来訪されました。

平成27年度から毎年11月に来訪され、今回で５年目になります。

はじめに、県遺族会の女性部の濵部長と役員の板東さん（吉野川市遺族連合会女性部長）が、広島の原爆投下時、弁当箱を抱えたまま原爆に散った男の子の実話をもとにした紙芝居「まっ黒なおべんとう」を上演しました。自分たちと同じぐらいの年齢の子供の出来事であったため、一言も言葉を発せず真剣に見入っていました。

その後館内を見学し、児童たちは約8,000柱の遺影に圧倒されながら、展示パネル・遺品などを見て、質問したりメモを取ったりと向学心が見て取れました。

今回の来館で、それぞれの児童が先の大戦の事実に触れ、戦争の悲惨さと平和の大切さについて、自ら考えるきっかけとなることを期待いたします。

戦没者記念館第九回特別企画展

令和二年一月十二日（日）～二十六日（日）

『徳島県遺族会による海外慰霊巡拝を辿る』

を開催します。

皆様の御来場をお待ちしています。

本会は、昭和五十二年度より海外戦跡慰霊巡拝事業を毎年実施し、昨年度までに五十回を数え、その巡拝者数は千百四十九名となっています（巡拝地はフィリピン、ミャンマー、グアム・サイパン・テニアン、中国、ニューギニアなど）。この事業は、戦没者遺族に対する慰謝の一環として、先の大戦において尊い命を国に捧げた戦没者の遺族がかの地に赴き慰霊追悼を行うとともに、現地の方々と友好親善を深めることを目的としたものです。

本特別企画展では、慰霊巡拝の行程、記録写真などのパネルや参加者の手記や追悼の言葉、戦没者の遺品などを展示し、遺族の切なる思いと、本会の海外慰霊巡拝事業の取り組みをお伝えし、戦争と平和について語り継ぐ一助とするものです。

今回の特別企画展は、海外慰霊巡拝ご参加者から提供いただいた資料によって実現するものですので、出品に御協力いただける方は県事務局まで一報をお願いします。

平成30年度第50回海外慰霊巡拝（ミャンマー国マンダレーにて）

ホームページ随時更新中!!

アクセス数 89,780　（R1.10.31 現在）

各種行事、記念館の語り部事業、慰霊巡拝等の最新の情報をお知らせしています。

携帯・パソコンの検索欄に 徳島県遺族会 もしくは 徳島県戦没者記念館 で 検索

ホームページのアドレス　URL　http://izokukai.jp/

遺族会の動き

令和元年九月～十月実施行事

（九月）

5日～6日　日本遺族会中国・四国ブロック会議（鳥取県）
14日　語り部事業（戦没者記念館）
25日　日本遺族会事務局職員研修会（青森県）
27日　自民党県連との意見交換会（繊維団地会館）
28日　神恩感謝祭（護国神社）
30日　正副会長会（護国神社）

（十月）

9日～10日　英霊にこたえる会中国・四国ブロック会議（岡山県）
11日　高知県香美市遺族会来館（戦没者記念館）
17日　女性部役員会（護国神社）
19日　語り部事業（戦没者記念館）
24日　戦没者遺族相談員辞令交付・研修会（徳島県庁）
30日　第9回特別企画展第1回打合せ会（護国神社）

令和元年十一月～令和二年一月行事予定

（十一月）

2日　例大祭（護国神社）
5日　阿波市立八幡小学校の平和学習（戦没者記念館）
6日　父の像清掃・第5ブロック担当（徳島中央公園）
9日　語り部事業（戦没者記念館）
10日～12日　沖縄「徳島の塔」慰霊参拝
23日　日本遺族会青年部研修会（靖国会館）
27日　正副会長会・記念館運営企画委員会（護国神社）

（十二月）

2日　フィリピン慰霊巡拝打合せ会（護国神社）
9日　全国戦没者遺族大会（自由民主会館）
14日　語り部事業（戦没者記念館）
21日　第6回70周年記念誌発行小委員会（護国神社）
23日　第9回特別企画展第2回打合せ会（護国神社）

（一月）

9日　正副会長会（グランドパレス徳島）
11日　語り部事業（戦没者記念館）
12日～26日　第9回特別展（戦没者記念館）
19日～25日　海外慰霊巡拝（フィリピン）
28日　日本遺族会事務局長会議（東京）
29日　日本遺族会青年部長会議（東京）
30日　日本遺族会女性部長会議（東京）